

参加者募集
農業食料工学会 農業機械部会セミナー

これからの製品安全と国際標準
— Society5.0 を迎えて—

日 時：2019年3月1日（金）13:10～17:40

会 場：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

農業技術革新工学研究センター はなの木ホール

（埼玉県さいたま市北区日進町 1-40-2）

地図 <http://www.naro.affrc.go.jp/iam/introduction/access.html>

主 催：農業食料工学会

協 賛：農研機構 革新工学センター

（一社）PL研究学会

企 画：農業機械部会

定 員：100名

参加費（当日会場でお支払い下さい）：正会員（協賛会員含む）2,000円 非会員3,000円

※農業食料工学会への体験入会の申込みも受け付けます（3,000円）

参加申込方法：次のいずれかの方法でお申込みください。

①メールによる参加登録：nogyo-kikai-bukai@ml.affrc.go.jp

（所属・会員区分・氏名を明記の上でお申込みください、受領メールを送付いたします）

②FAXによる参加登録：048-654-7135（下記申込みフォームに記入後送付）

（受領連絡ができません、受領連絡をご希望の方はメールにてお申込みください）

申込み締切日：2019年2月20日（水）

申込みフォーム（FAX用）

ご 所 属	
会員区分	農業食料工学会員・PL研究学会員・非会員
氏 名	

開催概要：

ここ数年、農作業死亡事故の発生件数は減少しつつありますが、死亡事故発生率でみると他産業よりも高く増加傾向にあり、また傷害事故に至っては発生件数すら十分に把握されていないのが実情です。これまで農作業現場における安全性に対する取り組みとして、安全な運転操作に向けた注意喚起や意識の覚醒、また安全装備を有した機械の選定や利用、さらに農道や出入り口を含めたほ場や現場の改良等が必要とされてきました。

一方、「Society5.0」の実現に向けた取り組みが、農業においても始まろうとしています。ロボット農機や自動運転農機の普及に向けた機運が醸成されつつある今日、これまでの「機能安全」の概念をさらに進化させた AI や IoT 時代に相応しい「Safety2.0」の考え方が提唱されています。

そこで、人とモノと環境が協力しながら安全性をいかに確保していくべきか、人の誤りや機械の不具合を凌駕し次世代の安全をどのように築いていったらよいか、今回のセミナーは大きな変革の時代を迎えるにあたり、これからの製品安全と国際標準に焦点を当ててみました。リスクアセスメントの基本的な考え方、安全性を考慮した開発事例や安全性に関する規制、基準、国際標準作り等の取り組みについて、安全分野の第一人者の方々からその一端をご紹介いただき、農業機械分野の安全性向上に向けたヒントにしたいと思います。

産官学の垣根を越えて、多数のご参加をお待ちしております。

注) Society5.0（創造社会）とは：

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会（Society）のこと。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、日本政府が提唱するテクノロジーを活用した新たな社会の仕組み。

Safety2.0（協調安全）とは：

人の注意力や判断力に頼る安全（Safety 0.0）、「隔離の原則」「停止の原則」に依拠した安全（Safety 1.0）に続く、人とモノと環境が協調して構築する安全の概念で、あらゆるモノがつながり、人と機械が共存する時代になくてもならない安全思想。機械が人間の動きを把握し、危険を察知した場合は機械の側が適切な動作をする。機械を操作する人の熟練度によって機械の動作を変え、作業員の体調をモニターし、異常がある場合は必要な操作を機械が取って代わるといったことを可能にする考え方。

参加者募集
農業食料工学会 農業機械部会セミナー

これからの製品安全と国際標準
— Society5.0 を迎えて—

プログラム：

司会進行 農業機械部会 幹事長 吉永 慶太（農研機構）

開 会

13:10 開会挨拶 農業機械部会 部会長 藤井 幸人（農研機構）

基調講演

13:15 新しい時代の安全の思想・技術と国際標準への提案
（一社）セーフティグローバル推進機構 向殿 政男 氏

話題提供

14:15 製品安全のためのリスクアセスメント-ニューアプローチ時代のリスク対策
（独）製品評価技術基盤機構 片岡 孝浩 氏

15:15 休憩

15:30 一般産業安全の動向と今後の展開
（株）I D E C 井上 洋一 氏

16:00 ものづくりにおける安全の現状と課題：～コマツの取り組み～
コマツカスタマーサポート（株） 平澤 千春 氏

16:30 製品安全のスマート化とリコール厳罰化への対応策
TDN インターナショナル（株） 渡辺 吉明 氏

総合討議

17:20 安全性向上への今後の展開
座長 農業機械部会 運営委員 長谷川 英夫（新潟大学）

閉 会

17:40 閉会の辞 農業食料工学会 学会長 近藤 直（京都大学）

◆ プログラムは、講師、会場の都合により予告なく変更になる場合があります

問い合わせ先：

農業食料工学会・農業機械部会 幹事 原田 一郎 山崎 裕文
（国研）農研機構 革新工学センター
TEL（直通）：048-654-7105、FAX：048-654-7135
メール：nogyo-kikai-bukai@ml.affrc.go.jp